



財政の道に依然として立ちはだかるいくつかの障害

マーチン・ギルゲル

2013年10月9日

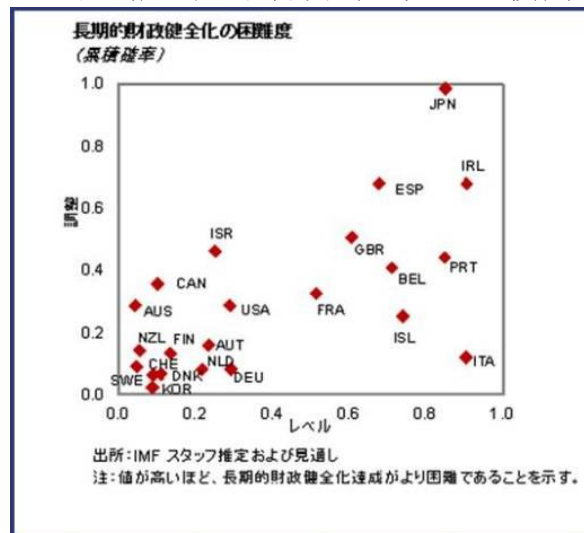
経済危機の発生から5年が経過しましたが、財政状況は依然として厳しいままです。プラス面を見ると、赤字削減への取り組みと回復への最初の兆候により、多くの先進国・地域で財政上のストレスが軽減しました。しかし、多くの場合債務比率は史上最高のままです。一方、成長の鈍化と資金調達コストの上昇が、より良い公共サービスへの需要が続いていることと相まって、新興市場国・地域の政府予算を圧迫しています。

先進国・地域：依然として目標に未到達

平均的な財政赤字は現在、経済危機のピーク時と比較して対GDP比で4パーセントポイント以上低下しており、大半の先進国・地域は公的債務比率をより安全な水準にまで引き下げるといった中期的な財政目標の達成の軌道にあります。国際通貨基金（IMF）の「[財政モニター](#)」では、日本を除き、財政赤字削減が最も必要な国や地域は、道のり3分の2に到達したと考えています。

これは、最後の道のりが一番楽になるという意味ではありません。残りの取り組みがいかに困難であるかを理解するために、我々は財政健全化のこれまでの経験から「財政面での困難さ」を計測する指標を作成しました。我々は、2つの点を検討しました。

- 任意の期間で任意のプライマリー黒字に達する困難度（以下のチャートとの縦軸）および
- 別の任意の期間にその黒字を維持する困難度（チャートの横軸）です。

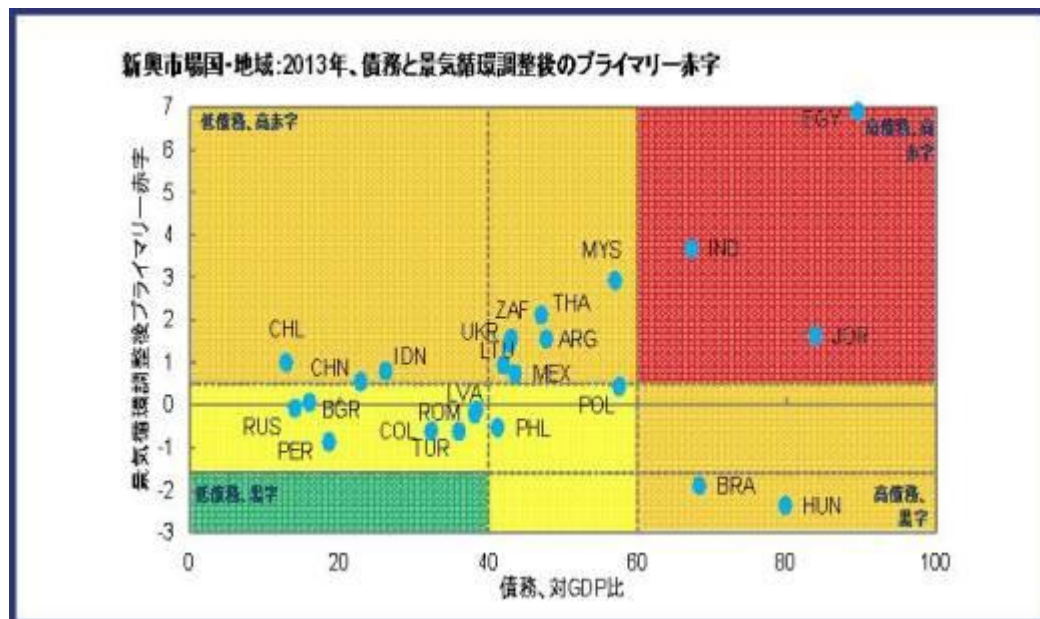


少なくとも大半の国々で、債務比率を下げるために財政黒字を長期間維持することは、「調整疲れ」が忍び寄るなか極めて困難であることがチャートから明らかです。この状況は特に欧州に関連しています。欧州では経済成長が引き続き弱く、既に抑制された予算に更なるプレッシャーを与えるだけです。

新興市場国・地域：予算圧力の高まり

過去数年間、新興市場国・地域では、財政の脆弱性が高まっています。これは主に2つの要因によります。第一に、金利と成長環境が悪化したことです。成長予測は平均1.75パーセントポイントも下方修正され、特にアジア、中東、北アフリカで資金調達コストが上昇しました。第二に、多くの国々で財政赤字が拡大して債務比率が上昇しました。その背景には、多くの場合適切な判断のもと、自動安定化装置を機能させ世界経済危機の影響を封じ込める財政刺激策を実施したことがありました。一部の国では、国有銀行による補助金融資といった準財政的活動や地方自治体およびその他の公共機関による予算外の活動などが、脆弱性に拍車をかけました。

そうは言っても、財政課題の重大度は新興市場国・地域により異なります。一部の国では高水準の債務と財政赤字により財政健全化ニーズが差し迫っています。他の国では、リスクの高まりにより健全化プロセスの開始が重視されます。比較的安全な財政状態を維持している国もあります。ただし全体的に、当面の裁量の財政措置を採る余地が消滅しています。また、途上国では、より多くの一段と良質な公共サービスに対する変わらぬ需要が、深刻な中期的課題を提起しています。



財政調整が世界の大半で行われるようなら、それらの国々はこれまで以上に効率的かつ公正・効果的に課税しなければならないことは確実です。[財政モニターの後半](#)ではこれについて

て詳細に検証していますが、これについては、数日以内にまた別のブログでお話したいと思います。

マーチン・ギルゲル：フランス国籍。IMF では主に「財政モニター」の作成を監督。以前は、債務の持続可能性と債務救済、並びにラテンアメリカとアフリカのマクロ経済政策形成に関する業務の指導に携わっていた。1994年にIMFに加わる前は、チリ・サンティアゴで国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会で業務。パリ政治学院及びパンテオン・ソルボンヌで学んだ。